

恵那市の環境を取り巻く現状

1. 現行計画策定以降の主な社会情勢の変化

1-1. 環境行政をめぐる世界や国の動向

○平成 17 (2005) 年の京都議定書発効に続き、平成 19 (2009) 年には気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の「第 4 次評価報告書 (AR4)」が公表され、温室効果ガスの大幅な削減に向けた取組みが活発化した。

○また、最新の知見をとりまとめた IPCC の「第 5 次評価報告書 (AR5)」が平成 26 (2014) 年 10 月に採択され、気候システムの温暖化に対する人為的影響は明らかであること、近年の人為起源の温室効果ガス排出量は史上最高となっており、これによってもたらされる気候変動が人間及び自然システムに対し広範囲にわたる影響を及ぼしてきたことなどが示されている。

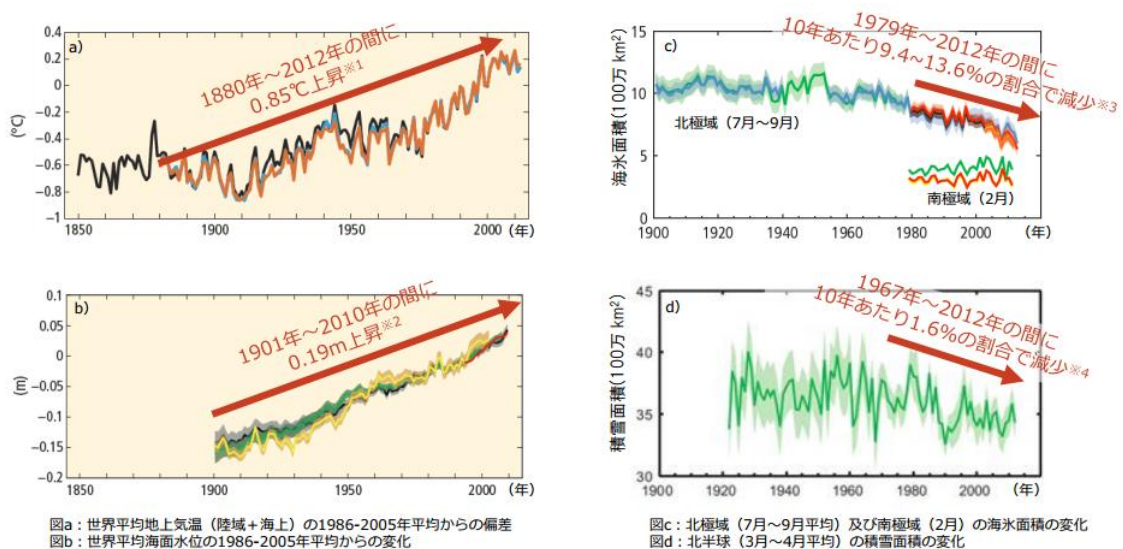


図 主な地球温暖化の状況

出典：環境省「IPCC 第 5 次評価報告書の概要—統合報告書—」

○平成 20 (2008) 年に「生物多様性基本法」が制定された。また、平成 22 (2010) 年には、愛知県で生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) が開催され、2050 年までに「自然と共生する世界」を実現することを目指し、2020 年までに生物多様性の損失を止めるための効果的かつ緊急の行動を実施するという「愛知目標」が採択された。国では、「生物多様性国家戦略 2012-2020」を策定するなど、生物多様性の保全に向けた取組みが構築されつつある。

○国は、平成 24 (2012) 年に「第 4 次環境基本計画」を策定し、「安全」の確保を前提に「低炭素」「循環」「自然共生」の各分野を統合的に達成して持続可能な社会を実現する視点が盛り込まれた。

○また、「経済・社会のグリーン化とグリーン・イノベーションの推進」「国際情勢に的確に対応した戦略的取組の推進」「持続可能な社会を実現するための地域づくり・人づくり、基盤整備の推進」を各分野に共通する重点分野として位置づけた。

- 平成 25 (2013) 年 5 月、平成 25 (2013) 年度以降の温暖化対策について、地球温暖化対策計画の策定を政府に義務付ける改正地球温暖化対策推進法が成立した。現時点での目標としては、2020 年度の温室効果ガス削減目標を、2005 年度比で 3.8%減とすることとしている。
- また、平成 27 年 7 月には、国の地球温暖化対策推進本部において、温室効果ガス排出量を 2030 年度に 2013 年度比-26.0% (2005 年度比-25.4%) の水準とする約束草案を決定し、国連気候変動枠組条約 (UNFCCC) 事務局に提出した。
- エネルギー政策については、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故をはじめとした、エネルギーを巡る国内外の環境の大きな変化を踏まえ、新たなエネルギー政策の方向性を示すものとして、「エネルギー基本計画」が平成 26 (2014) 年 4 月に策定された。

1-2. 岐阜県の動向

- 岐阜県では、平成 23 年 3 月に、「県民総参加による緑豊かな『清流の国ぎふ』づくり」を基本理念とした「岐阜県環境基本計画 (第 4 次)」を策定している。
- 関連計画として、低炭素分野では「岐阜県次世代エネルギービジョン」(平成 23 年 3 月)、「岐阜県地球温暖化対策実行計画」(平成 23 年 6 月)、資源循環分野では「第 2 次岐阜県廃棄物処理基本計画」(平成 24 年 3 月)、自然共生分野では「ぎふ農業・農村計画」(平成 23 年 3 月)、「生物多様性ぎふ戦略」(平成 23 年 7 月)、「第二期岐阜県森林づくり基本計画」(平成 24 年 3 月)等を策定している。
- 現在、「岐阜県環境基本計画 (第 5 次)」の策定に向けた準備が行われている。基本理念を「新たな世代へと守り育てる『清流の国ぎふ』づくり」とし、『清流の国ぎふ』にふさわしい環境を未来につないでいくための持続可能な仕組みを創る、県民一人ひとりが身近な暮らしが環境とかわりがあることを再認識し、豊かで美しい環境を守り伝える人を育てることを目的としている。

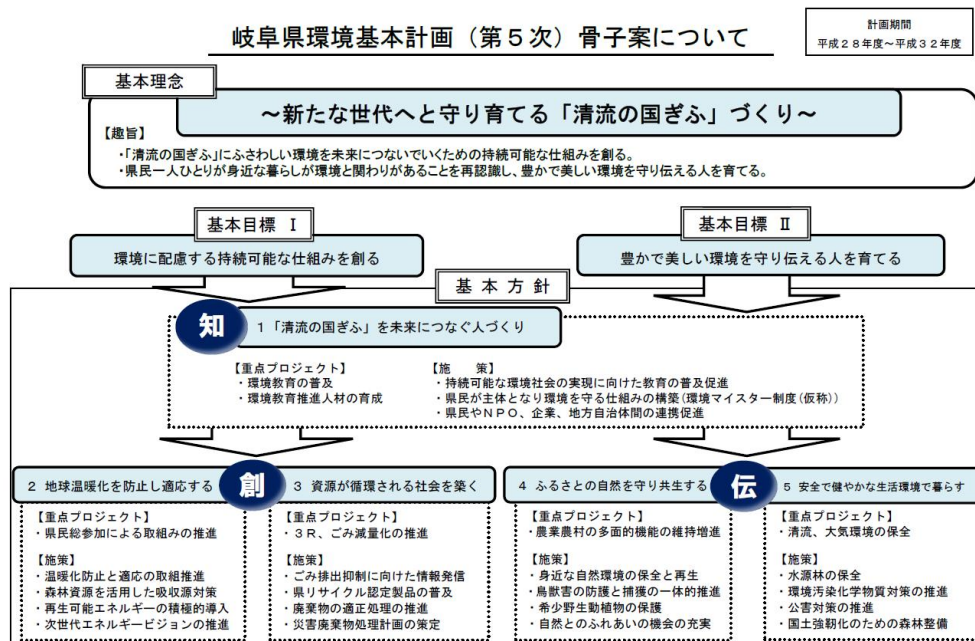


図 岐阜県環境基本計画 (第 5 次) 骨子案

出典：岐阜県提供資料 (取扱要注意)

2. 恵那市環境基本計画の上位・関連計画のポイント

○恵那市環境基本計画の上位計画、関連計画のポイントを以下に示す。

	[国] 第四次環境基本計画	[国] その他関連計画	[県] 岐阜県環境基本計画	[県] その他関連計画①	
策定年月	○平成 24 年 3 月	○第 3 次循環型社会形成推進基本計画 (平成 25 年 5 月) ○生物多様性国家戦略 2012-2020 (平成 24 年 9 月)	※平成 27 年度策定予定	○岐阜県地球温暖化対策実行計画 (平成 23 年 3 月) ○岐阜県次世代エネルギービジョン (平成 23 年 3 月) ※現在、平成 28 年度からの新たな計画を策定中	
全般的なこと	○持続可能な社会の姿 「低炭素・循環・自然共生の各分野を統合的に達成」 「“安全”を確保」 ○グリーンイノベーションの推進 ○環境に関する統計等の情報基盤の整備と活用 ○国民等のニーズに応じた環境情報の提供	—	○基本理念 「新たな世代へと守り育てる「清流の国ぎふ」づくり」 ○基本目標 ・環境に配慮する持続可能な仕組みを創る ・豊かで美しい環境を守り伝える人を育てる	—	
現行計画の重点テーマ	荒廃が見られる森林の整備や生物多様性の保全	○生物多様性の主流化に向けた取組の強化 ○生物多様性保全と持続可能な利用 ○自然環境データの整備	<生物多様性国家戦略 2012-2020> ○自然共生社会実現のための基本的な考え方 「自然のしくみを基礎とする真に豊かな社会をつくる」 ○基本戦略 ・生物多様性を社会に浸透させる ・地域における人と自然の関係を見直し、再構築する ・森・里・川・海のつながりを確保する ・地球規模の視野を持って行動する ・科学的基盤を強化し、政策に結びつける	○ふるさとの自然を守り共生する ・豊かな自然環境の保全 ・野生鳥獣被害への総合的な対策 ・自然とのふれあいと活用 ○安全で健やかな生活環境で暮らす ・自然災害に強い県土の整備 ・美しい景観の保全と創出	<岐阜県地球温暖化対策実行計画> ○森林の整備と新たな環境価値の創出 ・計画的な森林整備による吸収源機能の維持 ・企業との協働による森林づくりの推進 ・カーボン・オフセットの取組みの推進 など
	貴重な水源地としての水環境の保全	○水環境の保全	—	○安全で健やかな生活環境で暮らす ・良好な生活環境の保全	—
	不法投棄の防止・ごみ処理方法の適正化などのごみ問題の改善	○2R を重視したライフスタイルの変革 ○循環分野における環境産業の育成 ○土壌環境の保全 ○大気汚染物質対策 ○騒音・振動・悪臭対策	<循環型社会形成推進基本計画> ○循環型社会形成に向けた取組の中長期的な方向性 ・自然界における循環と経済社会における循環が調和する社会 ・3R 型ライフスタイルと地域循環圏の構築	○資源が循環される社会を築く ・廃棄物の発生抑制 ・廃棄物の適正処理の推進 ・再資源化の促進	—
	地球規模の環境問題解決への貢献	○地球温暖化対策 ○オゾン層保護対策 ○ヒートアイランド対策 ○低炭素社会、自然共生社会づくりとの統合的取組	—	○地球温暖化を防止し適応する ・総合的な地球温暖化対策の推進 ・森林による二酸化炭素吸収減対策 ・地域資源を活かした再生可能エネルギーの積極的な利活用	<岐阜県地球温暖化対策実行計画> ○新エネルギーの利用促進 ○ライフスタイルを変えるための動機付けとなる機会の提供 ○地域環境の整備及び改善 ・自家用車への依存度の緩和 ・省エネ性能等の住宅の環境性能の向上 など <岐阜県次世代エネルギービジョン> ○省エネルギー対策の推進 ○EV・PHV の普及促進 ○エネルギー使用状況「見える化」促進 ○太陽光発電の普及促進
	環境問題や環境保全に向けたしくみ作り・環境学習の推進	○持続可能な地域づくりのための地域資源の活用と地域間の交流等の促進 ○環境教育・環境学習等の推進と各主体をつなぐネットワークの構築・強化	—	○「清流の国ぎふ」を未来につなぐ人づくり ・環境に配慮した自主的行動の推進 ・環境社会を担う人材の育成 ・多様な主体の連携・協働の推進	—

	〔県〕 その他関連計画②	〔市〕 第2次恵那市総合計画	〔市〕 恵那市都市計画マスタープラン	まとめ（キーワード）	
策定年月	○生物多様性ぎふ戦略（平成23年7月） ○第2次岐阜県廃棄物処理基本計画（平成24年3月） ○第二期岐阜県森林づくり基本計画（平成24年3月）	※平成27年度策定予定	○平成24年3月		
全般的なこと	—	○将来像 「人・地域・自然が輝く交流都市 ～誇り・愛着を持ち住み続けるまち～」 ○理念 ・安心：個人や地域の実情に対応し、安心して暮らせるまちをつくる ・快適：まちの魅力を高め、便利に暮らすことができる ・活力：まちの元気が連携し、活力を生み出す	○基本理念 「水と緑の豊かな地域の連携による持続可能な定住・交流都市への再構築」 ・個性的な地域が連携した魅力と活力のある持続可能な都市の実現 ・自然・歴史・文化の保全・活用による美しく環境と共生した都市の創造 ・安全・安心で快適に住み働き続けられる都市の形成	○持続可能な（発展が可能な）社会 ○低炭素、循環、自然共生、安全 ○人と自然が共生する豊かで美しい「清流の国ぎふ」 ○人・地域・自然が輝く交流都市 ○誇り・愛着を持ち住み続けるまち ○水と緑の豊かな地域の連携による持続可能な定住・交流都市	
現行計画の重点テーマ	荒廃が見られる森林の整備や生物多様性の保全	<生物多様性ぎふ戦略> ○森林生態系、里地・里山生態系の保全・再生 ○生物多様性を活用したツーリズム ○生物多様性に関する普及啓発 <第二期岐阜県森林づくり基本計画> ○県民の生命・財産と良好な環境を守る、健全で豊かな森林づくり ○森林資源の循環利用を通じて活力ある地域社会を実現する、林業及び木材産業の振興 ○社会全体で森林づくりを支える、人づくり及び仕組みづくり	○自然環境や農地の保全活動を推進します ・間伐の促進 ・農地バンク ・森林組合への支援 ○魅力ある自然環境空間づくりを進めます ・里山・農業体験 ・景観形成重点地区・景観重要建造物・樹木の指定 ○農林業の衰退を防ぎます ・農林業基盤の整備 ・林内作業道の整備支援 ・担い手の体制基盤の検討	○水と緑の保全・整備方針 ・まちなかの公園から農地・森林までの多様な緑の保全・創出	○生物多様性保全と持続可能な利用 ○自然環境データの整備 ○森・里・川（・海）のつながりの確保 ○身近な自然環境の保全と再生 ○自然とふれあいの機会の充実 ○森林の整備と新たな環境価値の創出 ○生物多様性を活用したツーリズム ○まちなかの公園から農地・森林までの多様な緑の保全・創出
	貴重な水源地としての水環境の保全	<生物多様性ぎふ戦略> ○湿地・河川生態系の保全・再生	—	○水と緑の保全・整備方針 ・安全で潤いのある河川やダム湖などの水辺環境の保全・整備 ・地域の特性に応じた下水道の整備と維持管理 ・安全でおいしい水の安定供給に向けた上水道の整備と維持管理	○健全な水環境の確保 ○湿地・河川生態系の保全・再生 ○安全で潤いのある河川やダム湖などの水辺環境の保全・整備 ○地域の特性に応じた下水道の整備と維持管理
	不法投棄の防止・ごみ処理方法の適正化などのごみ問題の改善	<第2次岐阜県廃棄物処理基本計画> ○ごみ減量化の推進 ○各種リサイクルの推進 ○リサイクル製品の利用促進 ○一般廃棄物・産業廃棄物の適正処理の推進 ○環境美化運動の推進 ○災害時における廃棄物処理対策の推進	○暮らしを支えるライフラインを維持します ・生活基盤の維持（道路、上下水道） ○ごみ問題や環境に対する対策を推進します ・生活基盤の維持（ごみ収集） ・環境対策（公害対策、不法投棄対策） ・中間処理施設の整備検討 ○限られた資源の活用を促進します ・ゴミ減量化と3Rの推進	○安全・安心環境の整備方針 ・防災性の高い都市づくりの推進 ・防犯性の高い都市づくりの推進 ・バリアフリー・ユニバーサルデザイン都市づくりの推進	○自然界における循環と経済社会における循環が調和する社会 ○3R型ライフスタイルと地域循環圏の構築 ○環境美化運動 ○災害時における廃棄物処理対策 ○安全・安心環境の整備
	地球規模の環境問題解決への貢献	—	—	—	○温室効果ガス削減に向けた取り組み ○地球温暖化への適応 ○新エネルギー・省エネルギーの導入 ○森林資源を活用した吸収源対策
	環境問題や環境保全に向けたしくみ作り・環境学習の推進	—	—	○環境と景観の保全・整備方針 ・市民、事業者、行政の協働による自然環境の保全と都市環境の形成 ・山、農地、里、まちなかのつながりを大切にし、人々の暮らしがみえる景観形成	○持続可能な地域づくりのための地域資源の活用と地域間の交流 ○環境教育・環境学習等の推進と各主体をつなぐネットワークの構築・強化

3. 恵那市の環境の現状

3-1. 恵那市の概要

① 位置・地勢

- 本市は、岐阜県の南東に位置し、東は中津川市、長野県（平谷村、根羽村）、西は瑞浪市、南は愛知県豊田市、北は八百津町、白川町に接している。
- 市域は、東西 3km、南北 36km、面積は 504.19km² で、その 77%を山林が占めている。海拔は 179m から 1,709m で、市北部には笠置山、南東部には焼山をはじめとして標高 800m～1,200m 前後の山々が連なり、市街地の北部を木曾川が、また南端を矢作川が流れ、美しい山や川に囲まれている。
- 気候は、太平洋側気候の影響を受ける準内陸型の気候である。夏季の気温差が比較的大きく、冬季は寒さがやや厳しくて、降雪は少量、年間を通じて比較的安定した気候である。

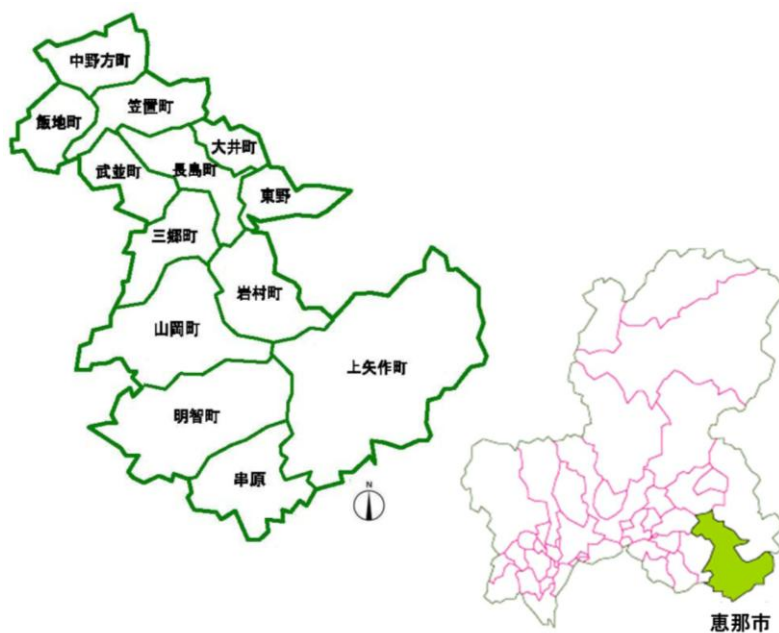


図 恵那市の位置図及び地域区分

出典：恵那市「平成 26 年版恵那市統計書」

② 沿革

- 恵那地域は、明治 22 年の町村施行後、明治の大合併を経て、昭和 28 年の「町村合併促進法」により、昭和 29 年、8 カ町村（大井町、長島町、東野村、三郷村、武並村、笠置村、中野方村、飯地村）が合併し「恵那市」となった。恵南では、明知町と静波村、三濃村の一部および吉田村が合併し明知町に、岩村町と本郷村が合併し岩村町に、遠山村と鶴岡村が合併し山岡町に、上村と下原田村が合併し上矢作町となり、恵那地域は、恵那市・中津川市・恵那郡（11 町村）となった。
- その中で、特に恵那市と恵南地域（岩村・山岡・明智・串原・上矢作）は、幕藩時代岩村三万石の松平氏、その一統の旗本遠山氏が治めた地域が大半であることから、古くから、歴史的、文化的にまた経済的にも深く関わりを持ってきた。
- 近年では、恵那峡や中山道などに代表される恵那、城下町の岩村、特産品の細寒天による山岡、大正村の明智、温泉の串原、モンゴル村による上矢作など、地域特性を前面に出した個性的なまちづくりを進める一方で、広域的なつながりも深めてきた。

- そうした中で、少子高齢化の進行、地方分権一括法による分権型行政システムへの移行など、社会情勢の急激な変化と多様化とともに、高度化する住民ニーズに適切に対応することが求められ、より充実したきめ細かな住民サービスを提供するため、住民生活に関わるさまざまな分野において、スケールメリットを生かし、人的・財政的基盤を強化する必要性が高まってきた。
- そこで、平成 14 年に恵那市・岩村町・山岡町・明智町・串原村・上矢作町の 6 市町村による「任意合併協議会」が、平成 15 年には「法定合併協議会」が設置され、各種事務事業などの擦り合わせとともに住民説明会を重ね、平成 16 年 10 月 25 日に新設合併方式により現在の「恵那市」が誕生した。

③ 地域自治区

- 地域自治区とは、住民に身近なところで、住民に身近な事柄を住民の主体的な取り組みを中心にして、住民の意向を踏まえ効果的に実施していくための制度である。
- 恵那市では、平成 17 年 1 月に市町村合併前の旧町村の区域ごとに 6 の地域自治区を設置し、平成 19 年 4 月には旧恵那市の町単位に 8 の地域自治区を設置し、市全域に 13 の地域自治区が誕生した。また、13 の地域自治区にまちづくりを進める「まちづくり実行組織」を設置し、「地域づくり補助金」を活用して事業を行っている。

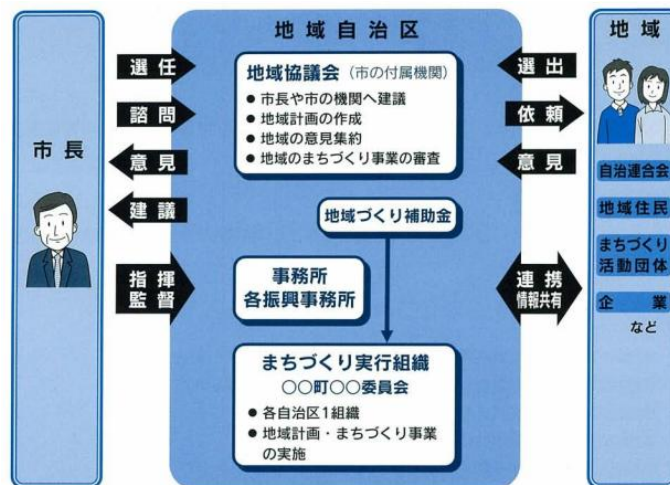


図 地域自治区制度のイメージ

出典：恵那市「地域自治区制度でまちづくり～新しい自治の仕組み～」

④ 人口・世帯数

○平成 26 年 4 月 1 日時点において、人口 52,778 人、世帯数 19,188 世帯である。

○近年は、人口は減少、世帯数は増加する傾向がみられていたが、今後は、いずれも減少に転じる見込みとなっている。

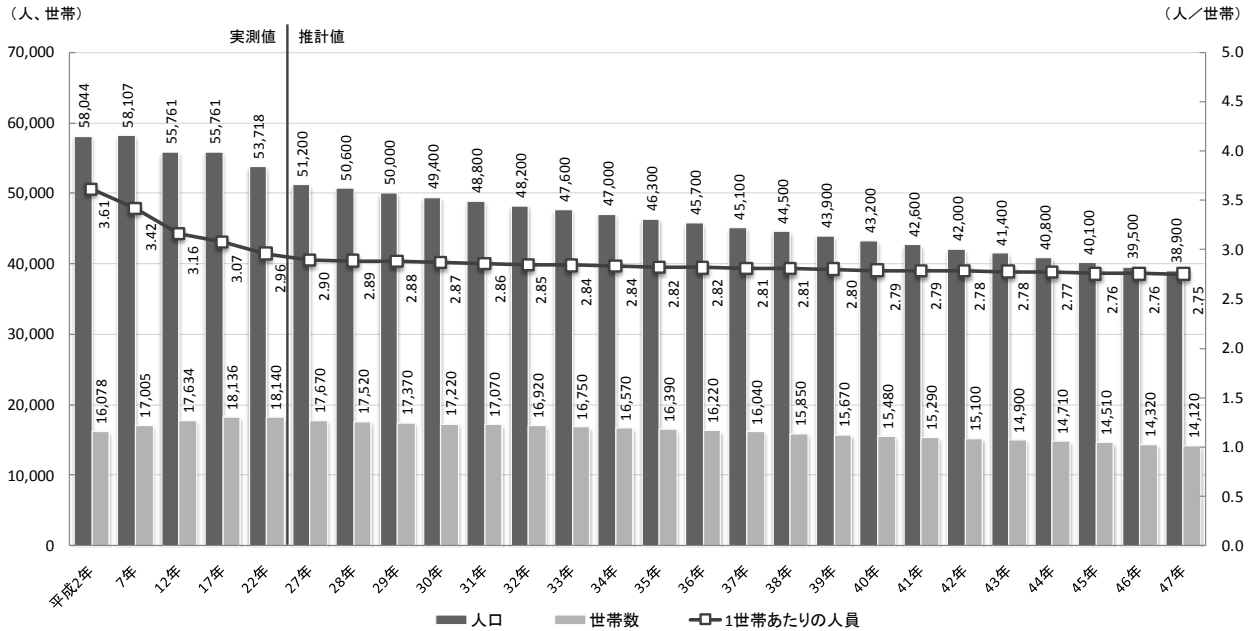


図 恵那市の人口・世帯数の推移、将来推計

出典：恵那市「恵那市将来人口推計結果」

⑤ 産業構造

○産業別事業所数をみると、卸売・小売業が 23.4%と最も多く、次いで、製造業が 13.4%、建設業が 12.3%となっている。

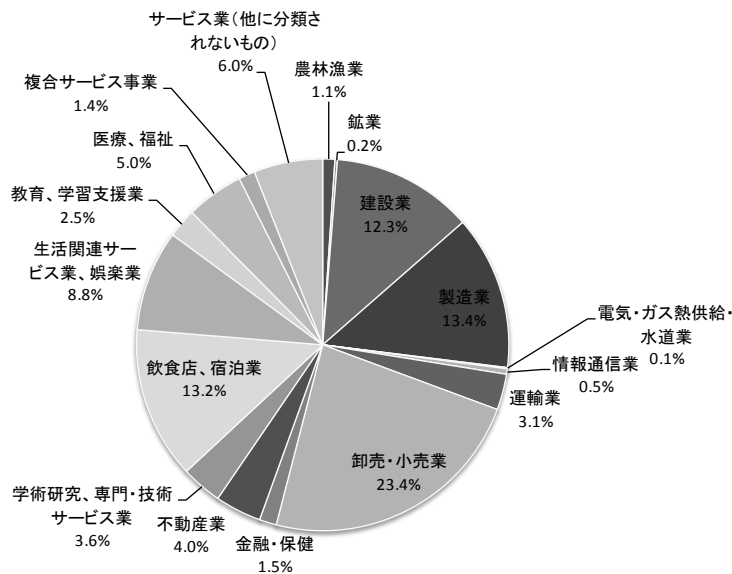


図 恵那市の産業別事業所数

出典：恵那市「平成 26 年版恵那市統計書」

3-2. 自然共生社会

① 気象

- 月別平均気温（平成 22～26 年の 5 年間の平均値）は、最低が 0.5℃（1 月）、最高が 25.9℃（8 月）である。
- 月別平均降水量（平成 22～26 年の 5 年間の平均値）は、7 月に 287.7mm と多くなっている。
- 年平均気温は、100 年間で約 2.1℃の上昇が観測されている（岐阜地方気象台）。このような気温上昇は、近年のゲリラ豪雨の増加などに影響を与えていると考えられている。
- 岐阜市における昭和 6（1931）年から平成 26（2014）年までにおける猛暑日日数は、10 年あたり約 1.7 日の割合で増加（日本全体：0.2 日の割合で増加）、熱帯夜日数は約 3.2 日の割合で増加（日本全体：1.4 日の割合で増加）、冬日日数は約 4.5 日の割合で減少（日本全体：2.2 日の割合で減少）しており、いずれも日本全体の变化割合を上回っている。

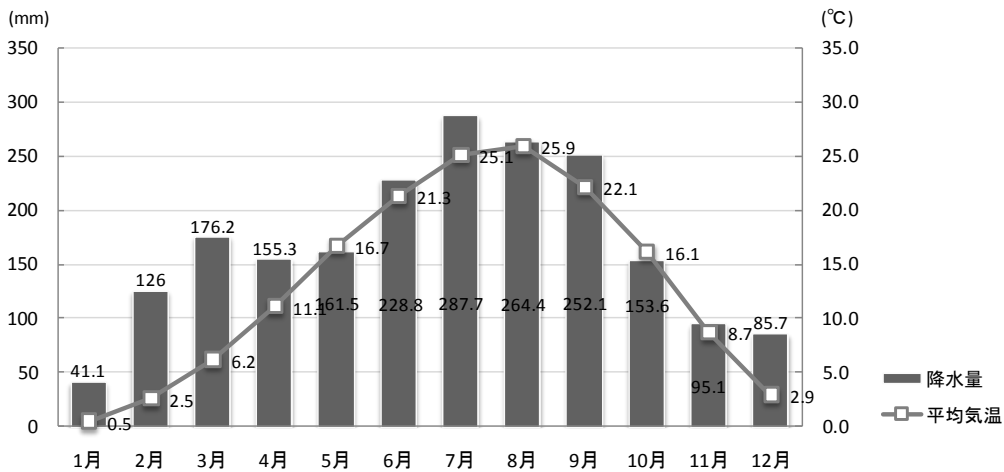


図 月別平均降水量と平均気温（平成 22～26 年の 5 年間の平均値）

出典：恵那市「平成 26 年版恵那市統計書」

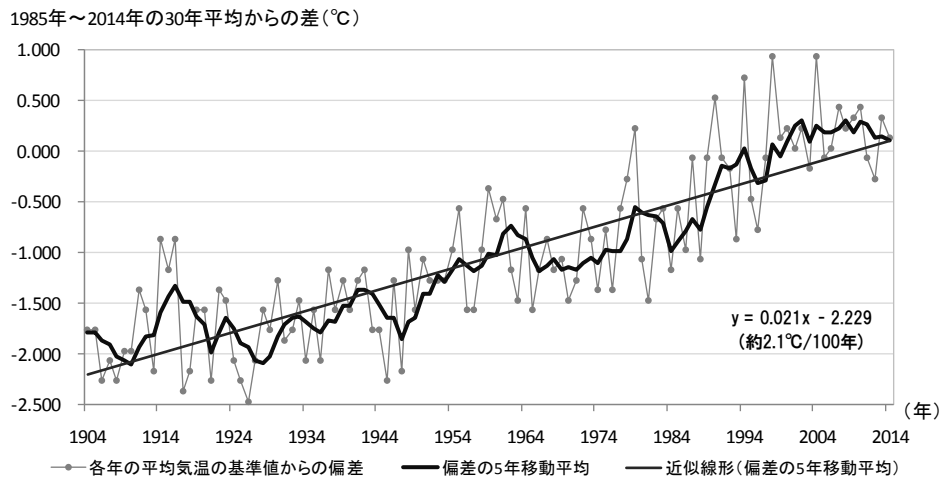


図 年平均気温偏差の推移（岐阜地方気象台）

出典：気象庁「岐阜地方気象台観測データ」

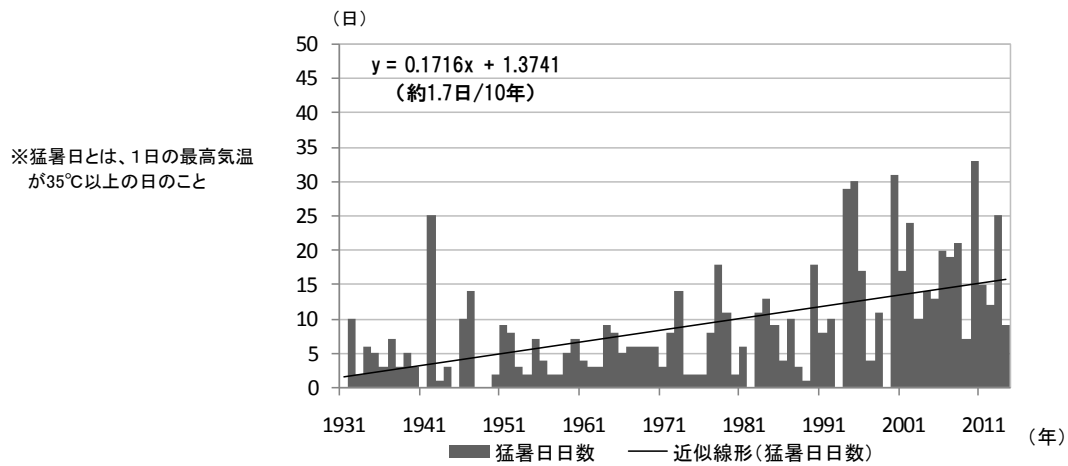


図 日最高気温 35℃以上（猛暑日）の日数の推移（岐阜地方気象台）

出典：気象庁「岐阜地方気象台観測データ」

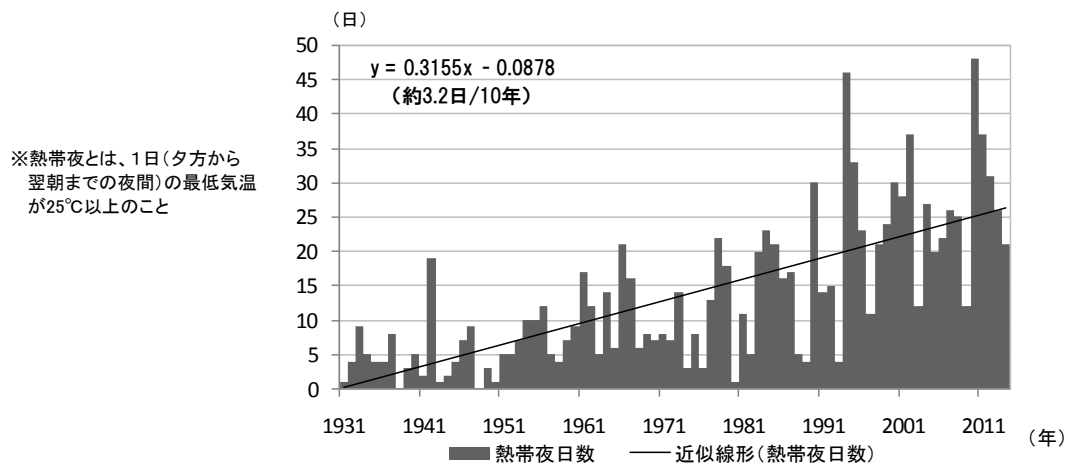


図 日最低気温 25℃以上（熱帯夜）の日数の推移（岐阜地方気象台）

出典：気象庁「岐阜地方気象台観測データ」

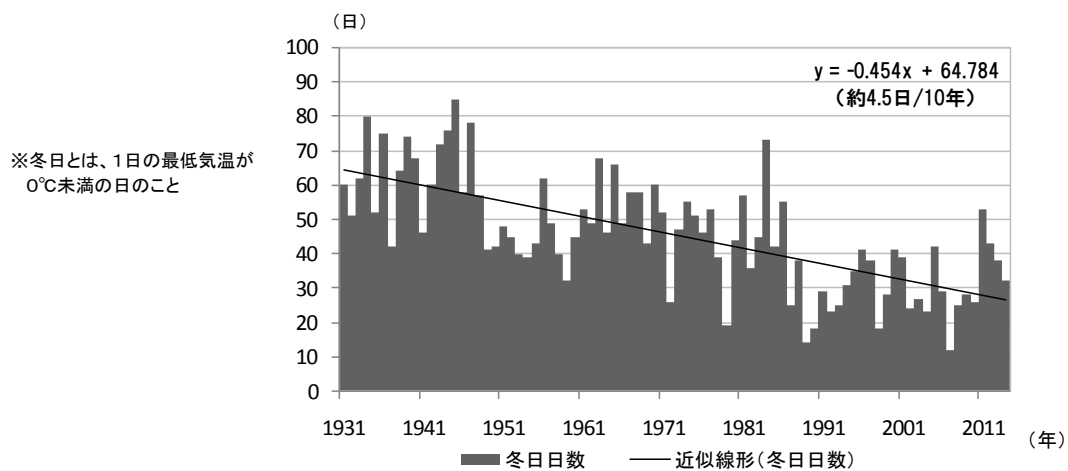


図 日最低気温 0℃未満（冬日）の日数の推移（岐阜地方気象台）

出典：気象庁「岐阜地方気象台観測データ」

② 土地利用

○平成 26 年度の地目別土地利用面積をみると、市の総面積 50,419ha のうち、森林が 76.4%にあたる 38,524ha を占めている。

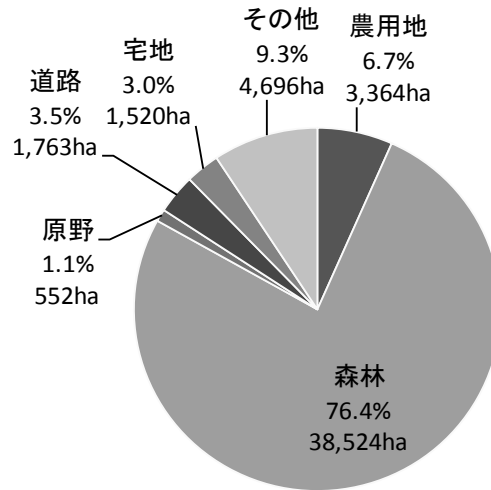


図 地目別土地利用面積の推移 (10月1日現在)

出典：岐阜県「平成 26 年岐阜県統計書 (県都市政策課)」

③ 森林

○恵那市での林家数、保有山林面積はともに減少し、林家あたり保有森林面積も減少傾向にある。

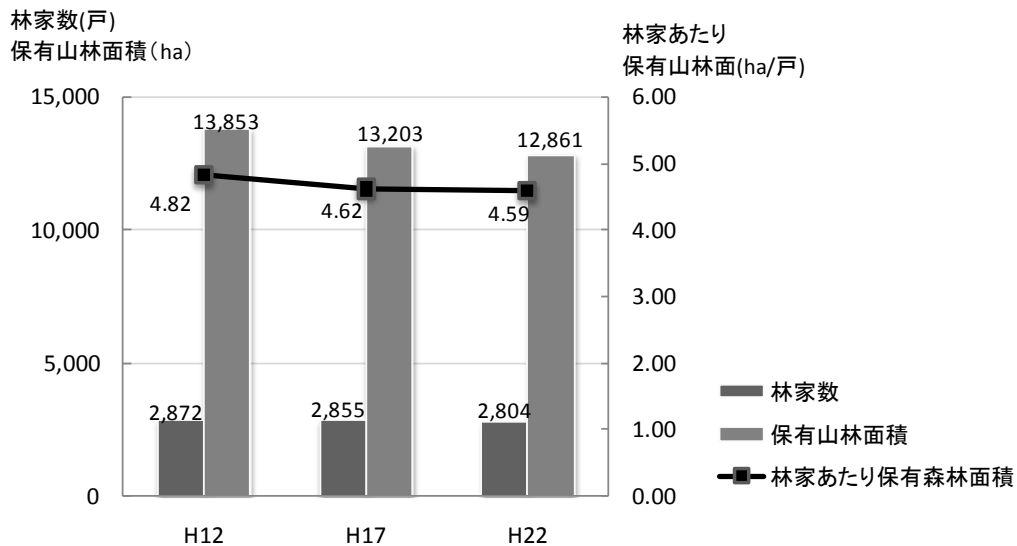


図 林業の動向 (各年 2 月 1 日現在)

出典：岐阜県「岐阜県統計書 (農林業センサス)」

○恵那市は岐阜県と比較し、人工林の占める割合が多い。

○市内の森林は天然林よりも人工林の割合が多いため、森林を維持するには間伐などの手入れを継続していく必要がある。

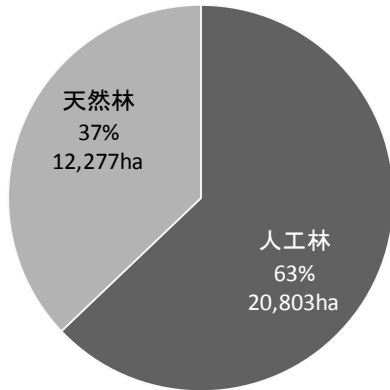


図 恵那市民有林での天然林割合 (3月31日現在)

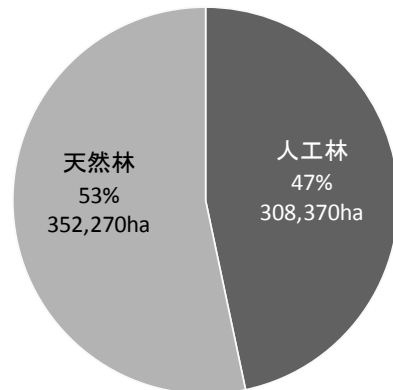


図 岐阜県民有林での天然林割合 (3月31日現在)

注) 森林面積には、無立木地、竹林は含んでいない。
出典：岐阜県「平成26年岐阜県統計書」

○森林は、樹木を育む以外にも多くの機能を有している。生物多様性の保全、土砂災害の防止、水源のかん養、保健休養の場の提供などの機能を通じて、森林は私たちの生活と深くかかわっている。

森林の多面的機能	公益的機能	環境保全機能	1. 水源かん養(洪水緩和、水資源貯留、水質浄化) 2. 土砂災害防止(表面侵食防止、表層崩壊防止、その他土砂災害防止、防風) 3. 快適環境形成(気候緩和、大気浄化、快適環境生活形成) 4. 生物多様性保全(遺伝子保全、生物種保全、生態系保全) 5. 地球環境保全(地球環境の緩和、地球の気候安定) 6. 保健・レクリエーション(療養、保養、行楽、スポーツ) 7. 教育文化(景観、風致、学習・教育、芸術、宗教・祭礼、伝統文化、地域性維持) 8. 林産物生産(木材、きのこ、山菜、工業原料、工芸材料)
		保健休養・文化機能	
	物質生産機能		

図 森林の有する多面的機能

出典：日本学術会議「地球環境・人間生活にかかわる農業および森林の多面的な機能の評価について」

④ 農地

○経営耕地面積は、年々減少傾向にある。また、耕作放棄地は平成12年から平成17年にかけて大きく増加したものの、平成17年から平成22年にかけてはわずかに減少している。

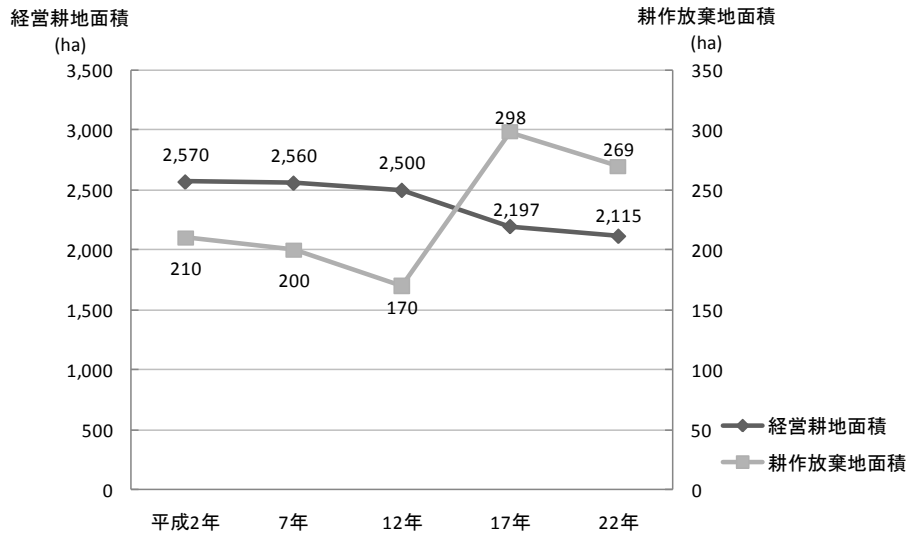


図 経営耕作面積および耕作放棄地面積の推移

注) 平成2年、7年、12年は具体的な数値を後ほど記載する

出典：恵那市「恵那市統計書（農林業センサス）」

○農家数は年々減少しており、第2種兼業農家については、平成7年の4,090戸から平成22年の1,907戸へと大きく減少している。一方で、近年では専業農家が微増している。

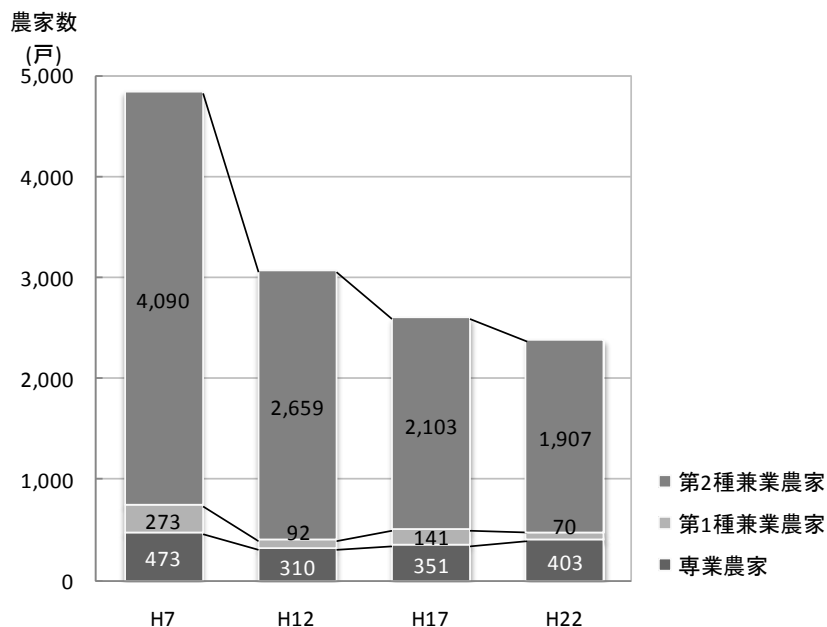


図 農家数の推移

出典：岐阜県「岐阜県統計書（農林業センサス）」

⑤ 動植物・生態系

○恵那市には、飛騨木曾川国定公園、恵那峡県立自然公園、胞山（えなさん）県立自然公園（の一部）が指定されている。

○また、岐阜県では、「岐阜県自然環境保全条例」に基づき、自然環境保全地域および緑地環境保全地域を指定しており、恵那市内には緑地環境保全地域が2カ所ある。

○このような公園や地域は、生物多様性を保全する拠点として位置づけられる。



図 自然公園・環境保全地域

出典：恵那市「恵那市環境基本計画 改定版」

表 自然公園・環境保全地域の指定状況

指定区分	名称	全体面積 (ha)		指定年月日	特徴
		うち特別地域面積 (ha)			
国定公園	飛騨木曾川	18,075.00		S39.3.3	飛騨川・木曾川沿いの奇岩・溪谷美
		—		H元.6.7	
県立自然公園	恵那峡	1,505.00		S29.9.14	恵那峡を中心とする溪谷美
		319.00			
	胞山	5,027.00		S29.9.14	高原・湖が一体となった自然景観美
		455.00		S35.8.30 H16.3.18	
緑地環境保全地域	天瀑山	68.20		S48.3.31	アカマツの大径木などの良好な緑地
		10.50			
	大船神社	7.05		S54.3.30	老齢巨木のスギ林を主体とした良好な緑地
		6.88			

出典：恵那市「恵那市環境基本計画 改定版」

- 恵那市は、周伊勢湾要素植物の分布域にあり、分布がほぼ東海地方に限られる植物や、寒冷地性の植物などをみることができる。
- ここでは、岐阜県のレッドデータブックや、環境省のレッドリストや各種調査結果を元に、恵那市周辺に生息・生育しているとされる貴重な自然環境要素について整理した。
- 以下の重要な動植物は、多様な動植物と一体に生息・生育するものであるため、絶滅の進行は生物多様性の低下につながる。

表 恵那市周辺に生息・生育している貴重な自然環境要素

重要な植物	ミズスギ、ミカワシオガマ、ヒメコウホネ、フクジュソウ、セッコクアゼオトギリ、ミカワバイケイソウ、シラタマホシクサ、ミズトンボ、カザグルマ、イシモチソウ、フジバカマ、トチカガミ、カキツバタ、ウンヌケ、ナガエミクリ、マメヅタラン、エビネ、サギソウ、トキソウ、コモウセンゴケ、シラヒゲソウ、クリンソウ、ホッスモ、キキョウヒダアザミ、ナツエビネ、キンラン
重要なほ乳類	ニホンテングコウモリ、カヤネズミ、ヒメヒミズ、ミズラモグラ
重要な鳥類	アカモズ、ミゾゴイ、クマタカ、アオバズク、ヤマセミ、アカショウビン、コサメビタキ、サンコウチョウ、サシバ、ヨタカ、サンショウクイ、ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、オシドリ、ツミ、アオバト、ハリオアマツバメ、トラツグミ
重要な両生類・は虫類	イシガメ、ブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ニホンアカガエル、ガレタゴガエル、モリアオガエル
重要な魚類	ホトケドジョウ、サツキマス、ドンコ、オオヨシノボリ
重要な昆虫類	マダラナニワトンボ、チャマダラセセリ、ヒメヒカゲ、ゴマシジミ、ウラナミジャノメ、クロヒカゲモドキ、ゲンゴロウ、クロミドリシジミ、ツマグロキチョウ、ヒメタイコウチ、ミドリシジミ、ハヤシミドリシジミ、オオヒカゲ、ギフチョウ、ゲンバイトンボ、ギンイチモンジセセリ、ヒメシジミ、アカマダラコガネ、ホンサナエ、トラフトンボ、トラフカミキリ、セダカコブヤハズカミキリ、タニグチコブヤハズカミキリ、ミヤマチャバネセセリ、フジミドリシジミ、シラユキコヤガ、オグマサナエ、フタスジサナエ、マルタンヤンマ、エゾスジヨトウ、モウセンゴケトリバ
重要な貝類	オカノマイマイ、オクガタギセル、タカキビ、ミドリベッコウ

出典：岐阜県「岐阜県レッドデータブック（2002年、2010年）」

3-3. 快適生活環境

① 公害苦情

○平成 25 年度の公害苦情は以下の通りであった。いわゆる典型 7 公害の苦情は 23 件で、平成 24 年度の 30 件と比較して 7 件（23%）減少した。内訳を見ると悪臭に関することが 16 件で最も多く、土壌汚染、振動、地盤沈下に関する苦情はなかった。悪臭に関する苦情の多くは野外焼却に関することであった。典型 7 公害以外では、不法投棄の通報が 17 件、空き地の除草に関する相談が 18 件であった。

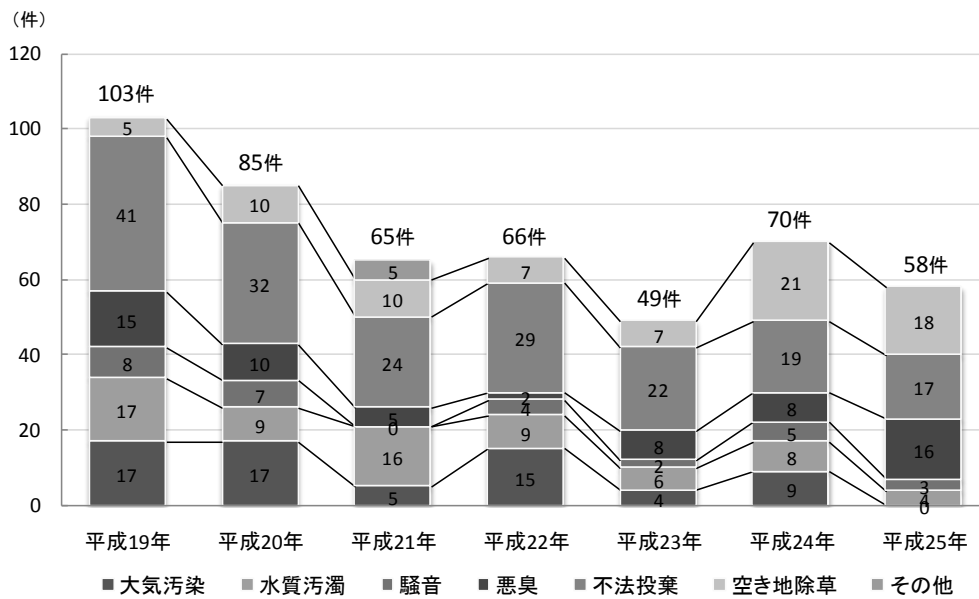


図 公害苦情件数の推移

出典：恵那市「恵那市の環境（平成 26 年度版）」

② 大気環境

○恵那市では、代表的な大気汚染物質である二酸化硫黄と二酸化窒素を長期的に測定し、大気汚染の状況を監視している。測定は毎月1回、市内7か所で二酸化硫黄と二酸化窒素を同時に測定できるトリエタノールアミンろ紙法（TEA法）により実施している。

○この測定結果はTEA法によるため、単純に環境基準と比較することはできないものの、この測定法における恵那市の基準値は $200\mu\text{g/day}/100\text{cm}^2\text{TEA}$ となっているため、二酸化硫黄、二酸化窒素ともに基準には適合しているものと考えられる。

○平成17年から平成25年までの年平均値の推移をみると、ほぼ横ばいで推移しながら、若干の下降傾向を示している。

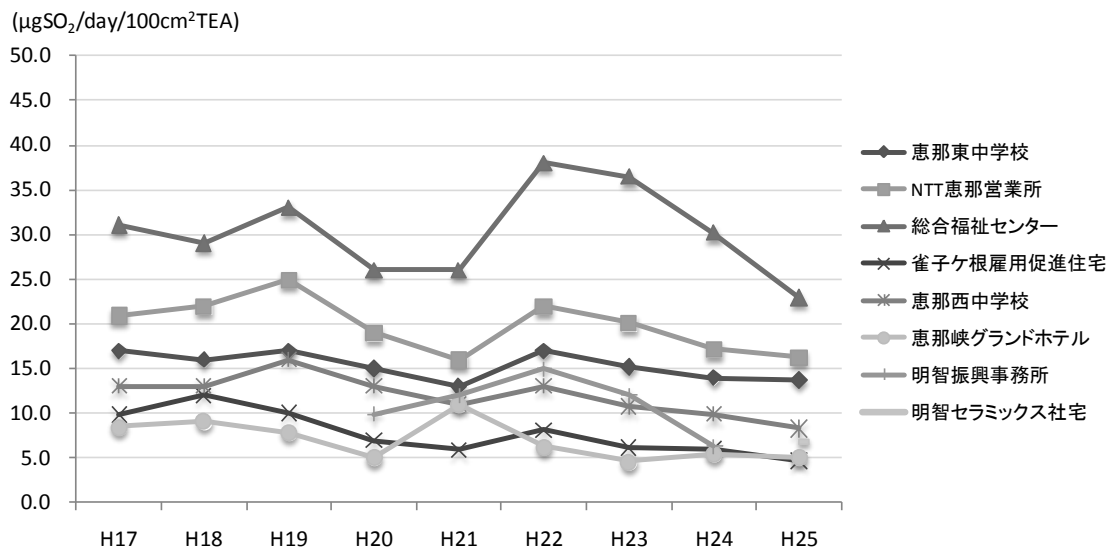


図 二酸化硫黄年平均値の推移

出典：恵那市「恵那市の環境（平成26年度版）」

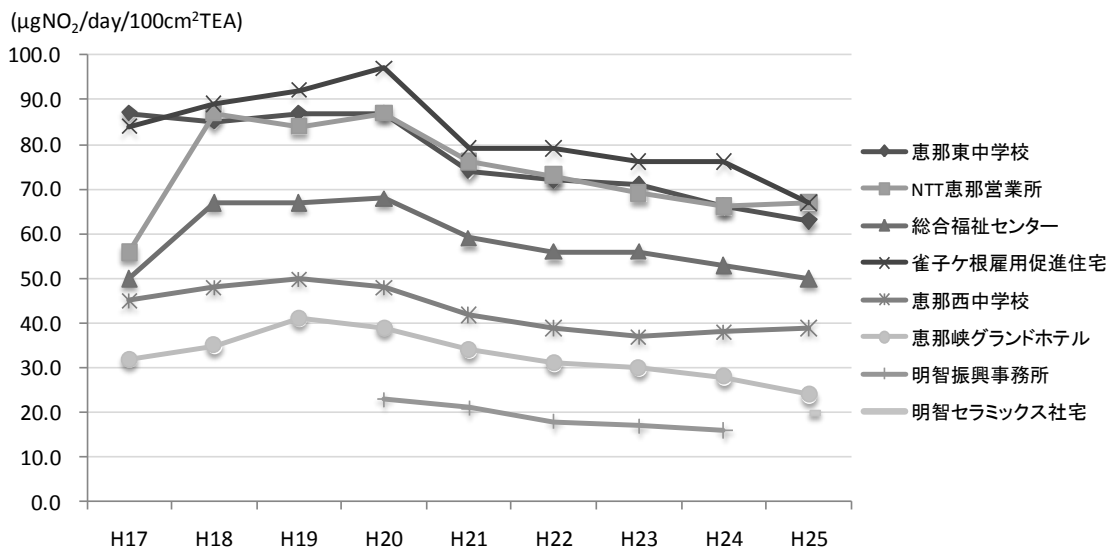


図 二酸化窒素年平均値の推移

出典：恵那市「恵那市の環境（平成26年度版）」

③ 水環境

○水質汚濁に関する環境基準のうち、類型指定を受けた河川における生物化学的酸素要求量(BOD)の適合状況は下表のとおりである。平成 25 年度においては、上村川の 1 か所で環境基準を未達成となったが、残りの地点では環境基準に適合していると評価できる結果となった。

○平成 25 年度における岐阜県の環境基準適合に係る BOD の達成率は 97%であったが、恵那市においては、18 か所の調査地点のうち 17 か所で環境基準を達成しているため、達成率は 94.4%であった。

表 河川別 BOD の環境基準達成状況

河川名	採水箇所	平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			類型指定	
		75%評価 X/Y	75%値 (mg/ℓ)	達成 状況	75%評価 X/Y	75%値 (mg/ℓ)	達成 状況	75%評価 X/Y	75%値 (mg/ℓ)	達成 状況		
木曾川水系	阿木川	天神橋	0/6	1.2	○	0/6	1.5	○	0/6	1.7	○	A
		両島橋	0/12	1.3	○	1/12	1.5	○	0/12	1.2	○	
		神之木橋	0/12	1.9	○	0/12	2.1	○	0/12	1.9	○	C
		中電取水口付近	0/12	2.2	○	0/12	1.8	○	0/12	1.9	○	
		木曾川合流前	0/12	2.4	○	0/12	1.9	○	0/12	1.9	○	
	木曾川	笠置橋	0/6	1.3	○	0/6	1.1	○	0/6	1.8	○	A
	中野方川	中央橋	0/6	1.5	○	0/6	0.8	○	0/6	1.7	○	A
野瀬橋		0/6	1.2	○	0/6	0.9	○	0/6	1.8	○		
巴橋		0/6	1.2	○	0/6	0.8	○	0/6	1.8	○		
庄内川水系	土岐川	浜松橋	0/6	1.4	○	0/6	1.1	○	0/6	1.8	○	A
		折坂橋	0/6	1.1	○	0/6	1.1	○	0/6	1.7	○	
		藤川合流前	0/6	1.2	○	0/6	1.2	○	1/6	1.9	○	
		瑞浪市境	0/6	1.1	○	0/6	1.4	○	1/6	1.9	○	
小里川	広瀬橋	0/6	1.4	○	0/6	1.2	○	0/6	1.6	○	B	
矢作川水系	阿妻川	阿妻才坂合流点	0/6	1.2	○	0/6	1.0	○	0/6	1.2	○	A
	明智川	交番裏合流点下	0/6	1.6	○	0/6	1.1	○	0/6	1.8	○	A
		出合橋合流点下	0/6	1.4	○	0/6	1.1	○	0/6	1.7	○	
	上村川	鶴鶴橋	2/6	1.1	×	2/6	1.1	×	5/6	1.2	×	AA

出典：恵那市「恵那市の環境（平成 26 年度版）」

※類型別の環境基準について

類型	利用目的の適応性	BOD 基準値
AA	水道 1 級、自然環境保全 及び A 以下の欄に掲げるもの	1mg/l 以下
A	水道 2 級、水産 1 級、水浴 及び B 以下の欄に掲げるもの	2mg/l 以下
B	水道 3 級、水産 2 級 及び C 以下の欄に掲げるもの	3mg/l 以下
C	水産 3 級、工業用水 1 級 及び D 以下の欄に掲げるもの	5mg/l 以下
D	工業用水 2 級、農業用水 及び E の欄に掲げるもの	8mg/l 以下
E	工業用水 3 級、環境保全	10mg/l 以下

④ 騒音・振動・悪臭

○恵那市では、騒音の現況を把握するため、年1回、一般地域6か所で騒音調査を実施している。

○地域類型Aの文化センター駐車場、及び地域類型Bの旧武並公民館、山岡町馬場山田上九号組集会所においては、昼間55dB以下、夜間45dB以下の環境基準を満たしている。また、地域類型Cの長島町中野児童公園、山岡町JA遠山支店、山岡町新原住宅においては、昼間60dB以下、夜間55dB以下の環境基準を満たしている。

表 環境騒音測定結果（一般地域）

測定場所	測定時間	等価騒音レベル			地域類型 環境基準
		23年度	24年度	25年度	
文化センター駐車場	午前	49.4	49.2	51.6	A
	午後	49.3	48.9	54.4	以下
長島町 中野児童公園	午前	40.5	44.9	41.0	C
	午後	44.8	42.6	46.9	以下
旧武並公民館	午前	47.0	48.0	50.6	B
	午後	45.5	49.7	49.9	以下
山岡町馬場山田 上九号組集会所	午前	41.7	42.7	45.3	B
	午後	42.0	44.2	44.0	以下
山岡町JA遠山支店	午前	50.9	49.2	51.5	C
	午後	50.5	47.2	49.0	以下
山岡町新原住宅	午前	36.5	41.9	41.0	B
	午後	37.0	37.9	41.1	以下

測定日：平成24年1月17日、平成25年1月9日、平成25年12月15日

出典：恵那市「恵那市の環境（平成26年度版）」

○振動に関しては、「振動規制法」に基づき、振動を発生する工場・事業所の施設を特定施設に指定し、監視・指導を行っている。平成26年3月31日現在の特定事業所数は下表のとおりである。

表 環境騒音測定結果（一般地域）

施設の種 類	施設数	工場数
金属加工機械	298	31
圧縮機	250	50
土石用破碎機等	230	54
織機	3	1
建設用資材製造機械	4	2
木材加工機械	16	13
印刷機械	41	12
ゴム練用ロール機	0	0
合成樹脂用射出成形機	218	6
鋳造型機	3	1
合 計	1,063	170

出典：恵那市「恵那市の環境（平成26年度版）」

⑤ ダイオキシン類

○ダイオキシン類は、人の生命や健康に重大な影響を与える恐れがあると指摘されている。恵那市では、定期的に大気及び土壌を測定し、ダイオキシン類による汚染の状況を監視している。

○近年の測定結果をみると、各調査地点において、大気と土壌のいずれも環境基準に適合している。

表 ダイオキシン類測定結果（一般地域及び発生源周辺）

項目	年度	調査地点		結果		適合状況
				大気pgTEQ/m ³ 土壌pg-TEQ/g	基準値 大気pgTEQ/m ³ 土壌pg-TEQ/g	
大気	平成 23年度	一般地域	恵那市役所	0.0097	0.6	○
		発生源周辺	リサイクルセンター	0.0034	0.6	○
			上本郷集会所	0.0110	0.6	○
	平成 24年度	一般地域	恵那市役所	0.0061	0.6	○
		発生源周辺	リサイクルセンター	0.0073	0.6	○
			上本郷集会所	0.0061	0.6	○
	平成 25年度	一般地域	恵那市役所	0.0072	0.6	○
		発生源周辺	リサイクルセンター	0.0082	0.6	○
			上本郷集会所	0.0110	0.6	○
土壌	平成 23年度	一般地域	中央児童公園	0.71	1,000	○
		発生源周辺	武並神社	1.40	1,000	○
			リサイクルセンター	3.90	1,000	○
	平成 24年度	一般地域	中央児童公園	0.28	1,000	○
		発生源周辺	武並神社	0.88	1,000	○
			リサイクルセンター	3.40	1,000	○
	平成 25年度	一般地域	中央児童公園	0.60	1,000	○
		発生源周辺	武並神社	0.39	1,000	○
			リサイクルセンター	4.70	1,000	○

出典：恵那市「恵那市の環境（平成26年度版）」

⑥ 都市公園・緑地等

○恵那市では、長島町と大井町に、計13か所の都市公園が整備されている。

表 都市公園一覧

名称	住所
まきがね公園	恵那市長島町中野1269番地389
阿木川公園	恵那市長島町正家二丁目117番地先
中央公園	恵那市大井町200番地8
中野公園	恵那市長島町中野475番地20
うとう公園	恵那市長島町正家一丁目8番地1
マロニエ公園	恵那市長島町正家三丁目6番地1
ほりた公園	恵那市長島町二丁目4番地6
まきもと公園	恵那市長島町正家一丁目6番地2
学頭公園	恵那市大井町1135番地2
ふれあいひろば	恵那市長島町中野二丁目2番地4
神田公園	恵那市長島町中野一丁目6番地1
大崎公園	恵那市長島町中野二丁目10番地
中山道大井宿広場	恵那市大井町210番地1

出典：恵那市 HP、恵那市「恵那市の環境（平成26年度版）」

⑦ 交通

- 自動車保有台数（乗用車）は、平成 22 年度に大きく増加し、平成 23 年度には減少している。その後、近年は微増傾向にある。世帯当たり保有台数も、同様の傾向を示している。
- 平成 26 年度における世帯あたり自動車保有台数の岐阜県、全国との比較結果をみると、全国的にも高い岐阜県（全国で 6 番目）において、その平均を上回る保有台数であり、自動車への依存度が高い地域であることが分かる。

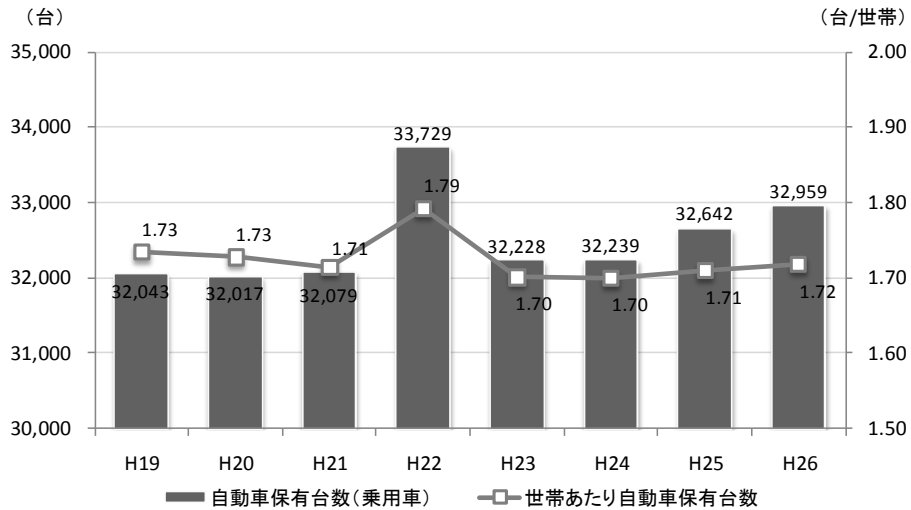


図 自動車保有台数（乗用車）と世帯あたり自動車保有台数の推移

出典：恵那市「平成 26 年版恵那市統計書」

表 世帯あたり自動車保有台数の比較

	自動車保有台数	世帯数	世帯あたり自動車保有台数
恵那市	32,959	19,188	1.72
岐阜県	1,274,557	748,882	1.70
全国	59,810,485	55,952,365	1.07

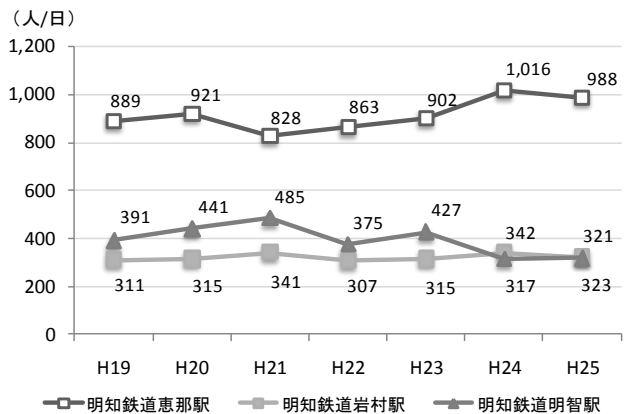
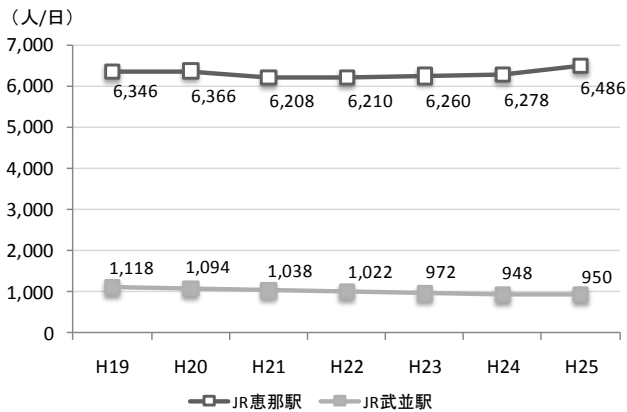


図 鉄道利用者数の推移

出典：恵那市「平成 26 年版恵那市統計書」

⑧ 歴史・文化

○恵那市における文化財（国指定文化財、県指定文化財、市指定文化財）のうち、天然記念物は下表のとおり 66 点が指定登録されている。

表 恵那市の指定登録天然記念物

種別	名称	員数	所在地	指定年月日	
国指定	富田ハナノキ自生地	17a	岩村町富田	T11.10.12	
	傘岩	1基	大井町奥戸	S 9. 1.22	
	ヒトツバタゴ自生地	2ヵ所1,584㎡	笠置町姫栗	T12. 3. 7	
県指定	団子スギ	1本	明智町	S32.12.19	
	自生のヒトツバタゴ	4本	明智町新井、大真菰、大庭	S33.12.14	
	大船神社の弁慶スギ	1本	上矢作町高井戸	S34. 3.10	
	大船神社参道の松並木	4km336本	上矢作町高井戸	S34. 3.10	
	笠置山のヒカリゴケ	500㎡	中野方町宇塚	S34.11.16	
	大井ヒトツバタゴ	7本	大井町古瀬	S34.11.16	
	中野方のヒトツバタゴ自生地	2ヵ所2本	中野方町太田、赤叉駄	S36. 6.19	
	武並のソウセイテク自生地	500㎡	武並町藤	S36. 6.19	
	亀ヶ沢のハナノキ自生地	1,000㎡	三郷町野井	S38. 9.10	
	河合のカヤ	1本	笠置町河合	S45. 4. 7	
	正家のカヤ	2本	長島町正家	S45. 4. 7	
	ひよもの枝垂れザクラ	1本	串原中沢	S57. 8.10	
	中山神社社叢	1ヵ所9,947㎡	串原中山	S63. 1.12	
	市指定	マダラカワタケ		中野方町新畑	H16.10.25
		ヤダケ		中野方町鷹の巣	H16.10.25
クマガヤ草			中野方町橋立	H16.10.25	
水汲場ハナノキ自生地		3本	飯地町市政	H16.10.25	
野井三谷のハナノ木自生地			三郷町野井	H16.10.25	
藤のカヤの木		1本	武並町藤	H16.10.25	
大平の福寿草		1ヵ所	上矢作町達原	H16.10.25	
新田の桜		1本	上矢作町本郷	H16.10.25	
島の大杉		1本	上矢作町島	H16.10.25	
櫃ヶ沢の罫穴		6ヵ所	上矢作町達原	H16.10.25	
銀杏木		1本	山岡町田沢	H16.10.25	
大杉(庚申杉)		1本	山岡町田沢	H16.10.25	
枝垂柿		1本	山岡町馬場山田	H16.10.25	
馬場桜		1本	山岡町馬場山田	H16.10.25	
梅(臥龍梅)		1本	山岡町馬場山田	H16.10.25	
大杉(参道杉)		1本	山岡町久保原	H16.10.25	
榎木(山岡町久保原)		1本	山岡町久保原	H16.10.25	
逆さ柳		1本	山岡町下手向	H16.10.25	
ハナノ木(山岡町下手向群生地)		1ヵ所31本	山岡町下手向	H16.10.25	
ハナノ木(山岡町下手向群生地)		1ヵ所	山岡町下手向	H16.10.25	
ハナノ木(山岡町下手向群生地)		1ヵ所	山岡町下手向	H16.10.25	
ヒトツバタゴ		1本	山岡町下手向	H16.10.25	
榎木(山岡町田代)		1本	山岡町田代	H16.10.25	
船岩			山岡町下手向	H16.10.25	
大杉		1本	山岡町上手向	H16.10.25	
ハナノ木(山岡町久保原)			山岡町久保原	H16.10.25	
桧		1本	山岡町久保原	H16.10.25	
観音堂のイチイ		2本	明智町門野	H16.10.25	
門野神社のカヤ		1本	明智町門野	H16.10.25	
滝坂観音堂の枝垂れ桜		1本	明智町滝坂	H16.10.25	
上田薬師堂のサルスベリ		1本	明智町上田	H16.10.25	
中切津島神社大杉		2本	岩村町飯羽間	H16.10.25	
前平のいちよう		1本	飯地町前平	H16.10.25	
南のかや		2本	飯地町南	H16.10.25	
五明のもみ		1本	飯地町五明	H16.10.25	
奥屋のかし		5本	飯地町奥屋	H16.10.25	
土々ヶ根のしだれザクラ		1本	大井町土々ヶ根	H16.10.25	
佐々良木中坪の榎		1本	三郷町佐々良木	H16.10.25	
飯地町大根シデコブシ自生地		290本9,040㎡	飯地町大根	H16.10.25	
大円寺ハナノキ		1本	岩村町富田	H16.10.25	
シデコブシ自生地		1ヵ所10本	岩村町飯羽間	H16.10.25	
釜井の大まき		1本	串原釜井	H16.10.25	
住畑の大杉		1本	串原大野	H16.10.25	
千田のヒトツバタゴ		1本	長島町久須見	H16.10.25	
保古の湖のゴウツツジ自生地		38本20,600㎡	東野保古山	H16.10.25	
猿投神社のヒトツバタゴ		1本	明智町上田	H16.10.25	
萩原の大栴		1本	上矢作町飯田洞	H16.10.25	
大馬渡の大杉	1本	上矢作町漆原	H16.10.25		
杉平八幡神社の大杉	1本	明智町杉平	H16.10.25		
八斗蒔の彼岸ザクラ	1本	明智町常盤町	H16.10.25		

出典：恵那市「平成 26 年版恵那市統計書」

⑨ 景観

- 市街地や幹線道路上からは恵那山や笠置山を良好に眺めることができる。また高原地や丘陵上からは遠方に御嶽山や中央アルプスを望むことができる。
- 木曾川水系、矢作川水系、庄内川水系からなる 51 もの大小様々な河川が流れており、山と川の美しい自然景観が形成されている。市内 7 つのダム及びダム湖が存在する。
- 市街地以外の盆地や丘陵地にはのどかな田園景観・農村景観が広がっている。
- 岩村町富田地区の農村風景は、「第 7 回美しい日本のむら景観コンテスト（平成 10 年度・農林水産省農村振興局）」の集落部門において、農林水産大臣賞を受賞している。また、中野方町坂折地区の棚田は急斜面地に当時の石組みの技術を集めてつくられており、全国棚田百選に選ばれている。岩村町本通りについては、江戸時代、東濃地方の政治・経済・文化の中心として栄えた城下町の姿を今に伝えており、平成 10 年重要伝統的建造物群保存地区に選定された。



図 優れた景観資源

出典：恵那市「恵那市景観計画」

⑩ その他の環境資源

- 恵那市にはダムも多く建設されており、大井ダム、阿木川ダム、小里川ダム、矢作ダム等、7つのダムおよびダム湖が存在する。大井ダムは日本初の発電用ダムであり、ダムによって形成された風光明媚な湖は、地理学者の志賀重昂によって恵那峡と命名され、国立自然公園にも指定されている。1991年に完成した阿木川ダムによって形成された阿木川湖は、恵那峡とともにダム湖百選に選定されている。ダム湖ではないが、大正時代後期に築造された根の上高原の保古の湖は、県立自然公園に指定されている。
- 現在旧恵那市を中心に約600カ所にため池が登録されており、農業用としての機能の他、動植物の生息・生育や、景観の向上にも役に立っている。
- ダム湖の広大な空間や河川、清らかな湧水、特有の動植物を育む湿地など、多様な水の姿を楽しむことが出来る。

■岐阜県における「ダム湖百選」認定ダム湖

	<p>恵那峡（大井ダム） 日本初のダム式発電です。貯水池周辺は恵那峡として親しまれています。</p>
	<p>阿木川湖（阿木川ダム） 都市型ダムとして雄大な貯水池。開放感のある空間は地域の人々の憩いの場となっています。</p>

写真出典：恵那市「恵那市景観計画」、恵那市「恵那市環境基本計画 改定版」

■岐阜の名水百選



西行ゆかりの水

西行法師が奥州平泉からの帰途、墨を磨（す）るのに使った水とされています。



龍神の井・霧ヶ井

岩村城の山頂に龍神の井・霧ヶ井があります。17ある井戸のうち最大のものが龍神の井、城の別名に由来する伝説を持つ井戸が霧ヶ井です。

写真出典：岐阜県「<http://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/kankyo/shizenhogo/c11265/water37.html>」
岐阜県「<http://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/kankyo/shizenhogo/c11265/water32.html>」

■ぎふふるさとの水辺

	<p>飯羽間ホタル舞の郷 飯羽間川</p> <p>地区の全住民を会員とする飯羽間ホタル舞の郷構想実行委員会を設立し、会員の自宅でのホタル幼虫飼育や、共同飼育施設の設置、先進地視察などを行い、保全活動に取り組んでいます。</p>
	<p>ホタルが飛びかう町 長島 永田川・城ヶ洞川</p> <p>長島町まちづくり委員会がホタル小屋を設置し、ホタル、カワニナの繁殖、河川の清掃、草刈、保全活動を行っています。周辺には、案内看板が設置され、地域の他、多くの市民が訪れます。</p>
	<p>ホタルが飛びかう町 長島 千田川</p> <p>長島町まちづくり委員会がホタル小屋を設置し、ホタル、カワニナの繁殖、河川の清掃、草刈、保全活動を行っています。周辺には、案内看板が設置され、地域の他、多くの市民が訪れます。</p>

写真出典：恵那市「恵那市環境基本計画 改定版」

3-4. 低炭素社会

① 部門別エネルギー消費量

○本市の部門別エネルギー消費量について、経済産業省「都道府県別エネルギー消費統計」における岐阜県のデータを同省「市町村別エネルギー消費統計作成のためのガイドライン」の考え方にに基づき、各種統計データを用いて推計した。

○2012年の部門別のエネルギー消費量は、産業部門が1,682TJで1990年比24.6%の減少となっているが、民生家庭部門が707TJ（1990年比：35.7%増）、民生業務部門が1,187TJ（1990年比：71.0%増）、運輸部門が547TJ（1990年比：41.7%増）となり、産業部門の減少分が吸収されてしまっている。

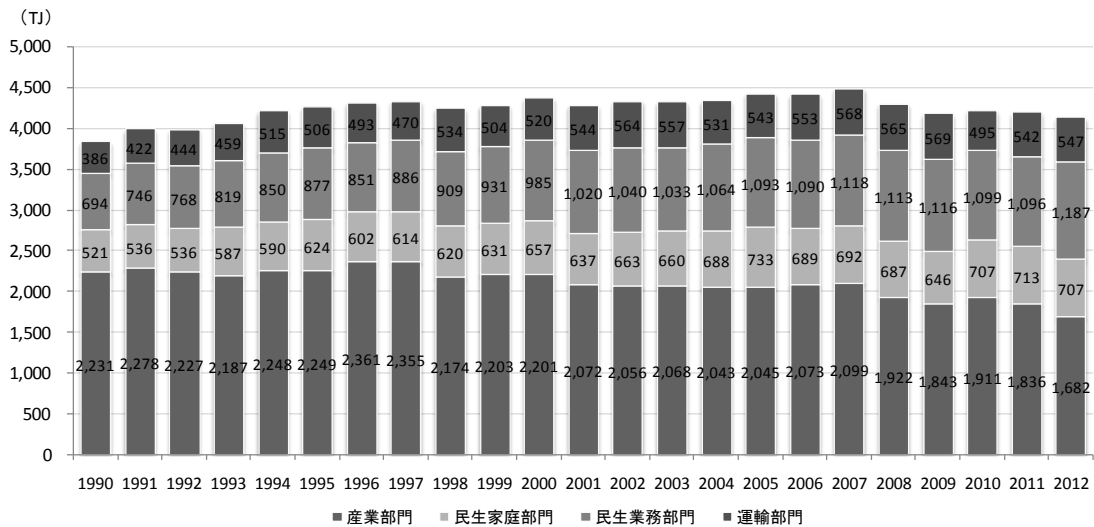


図 部門別エネルギー消費の推移（推計）

出典：経済産業省資源エネルギー庁「都道府県別エネルギー消費統計【岐阜県】」
経済産業省資源エネルギー庁「市町村別エネルギー消費統計作成のためのガイドライン」

② エネルギー消費

○平成25年度の電力消費量は、電灯系統で127,531千kWh、電力系統で352,766千kWh、合計で480,297千kWhであった。

○近年の電力消費量の推移をみると、平成21年度から平成22年度までは増加傾向にあったものの、平成23年3月の東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故以降、電力消費量は減少傾向にある。

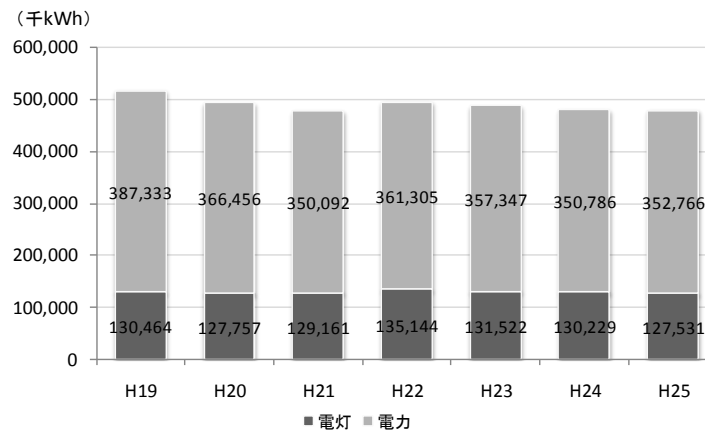


図 電力消費量の推移

出典：恵那市「平成26年版恵那市統計書」

③ 住宅用太陽光発電システム

○恵那市では、地球温暖化対策の一環として、自然エネルギーの有効利用を促進するため、個人住宅に太陽光発電システムを導入する市民に対し、平成 21 年度から補助金を交付している。

○平成 25 年度は、142 件のシステム設置者に総額 21,870 千円を交付している。この補助金を活用して設置された太陽光電池モジュールの最大出力は、累計で 2,965.89kW となる。

表 住宅用太陽光発電システム補助金の実績

年度	補助金交付件数	補助金交付総額	太陽電池モジュール最大出力の合計	1 件当たりの平均太陽電池モジュール出力	設置費総額(消費税除く)	1 kW 当たりの平均設置費
H21 年度	79 件	14,225,000 円	322.15kw	4.08kw	190,983,069 円	592,839 円
H22 年度	82 件	14,969,000 円	343.20kw	4.19kw	195,219,695 円	568,822 円
H23 年度	166 件	34,000,000 円	773.64kw	4.66kw	400,466,047 円	517,639 円
H24 年度	164 件	25,156,000 円	810.07kw	4.94kw	358,391,003 円	442,420 円
H25 年度	142 件	21,870,000 円	716.83Kw	5.05Kw	289,823,630 円	404,313 円
計	633 件	110,220,000 円	2,965.89Kw	4.69Kw	1,434,883,444 円	483,795 円

出典：恵那市「恵那市の環境（平成 26 年度版）」

表 補助金による地区別設置状況（平成 21 年度～平成 25 年度合計）

地区	大井	長島	東野	三郷	武並	笠置	中野方	飯地	岩村	山岡	明智	串原	上矢作	合計
件数	182	116	24	41	47	8	17	13	68	45	51	10	11	633
出力(kW)	839.53	527.36	127.40	183.11	217.56	35.54	83.62	75.29	317.94	230.17	222.13	51.49	54.75	2,965.89

出典：恵那市「恵那市の環境（平成 26 年度版）」

3-5. 循環型社会

① ごみ処理

- 平成 25 年度のごみ排出量は 16,017t で、前年度と比較して 82t (0.5%) の減量となった。また、市民 1 人 1 日当たりのごみ排出量は 816g であり、前年度と比較して 5g (0.6%) 増加している。
- 排出されたごみを適正に処理するための経費は 9 億 6,860 万円で、前年度より 1 億 3,053 万円 (11.9%) 減額している。1t のごみを処理するのに平均 69,469 円かかっており、前年度と比較して 9,896 円減額している。
- 再生利用率 (リサイクル率) は、エコセンター恵那の稼働 (平成 15 年度) によって増加したが、集団回収量の落ち込みなどにより、平成 18 年度の 31.0% をピークに減少するようになった。しかし、平成 22 年度は 33.9% と前年度から一気に 4.8 ポイントも上昇した。これは、ごみ処理施設の統合に伴って、RDF 炭化物の出荷量が増加したことが大きな要因であり、平成 23 年度以降もその傾向が続いている。

表 ごみ排出量、1 人当たり日平均排出量の推移

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	
人口(人)	56,983	56,650	56,206	55,681	55,254	54,877	54,381	53,745	
ごみ排出量(t)	18,377	17,979	17,312	16,768	16,213	16,229	16,099	16,017	
1 人当たりの 日平均排出量(g)	国	1,116	1,089	1,033	994	976	975	964	958
	県	1,060	1,027	1,013	991	960	959	932	928
	市	884	870	844	825	804	810	811	816
ごみ処理経費(千円)	1,052,200	1,062,070	1,091,921	1,013,688	743,769	841,722	1,099,132	968,602	
市民 1 人当たりの 平均処理費(円)	18,465	18,748	19,427	18,205	13,461	15,338	20,212	18,022	

出典：恵那市「恵那市の環境 (平成 26 年度版)」

表 再生利用量と埋立量の推移

年度	再生利用量 (再生利用率)			埋立量 (埋立率)		
	旧市	南部	全体	旧市	南部	全体
18	3,984 (32.4)	1,709 (28.3)	5,693 (31.0)	816 (6.6)	483 (8.0)	1,299 (7.1)
19	—	—	5,418 (30.1)	—	—	1,296 (7.2)
20	—	—	5,084 (29.4)	—	—	1,209 (7.0)
21	—	—	4,876 (29.1)	—	—	1,291 (7.7)
22	—	—	5,503 (33.9)	—	—	1,005 (6.2)
23	—	—	5,244 (32.3)	—	—	922 (5.7)
24	—	—	5,238 (32.5)	—	—	852 (5.3)
25	—	—	5,691 (35.5)	—	—	779 (4.9)

※再生利用量とは、集団回収量、拠点回収量、炭化物量、リサイクルセンターで処理後の金属量と資源物量、搬入古紙・古着量、特定家庭用機器量を合計したもの。

出典：恵那市「恵那市の環境 (平成 26 年度版)」

② 生活排水処理

○合併浄化槽普及率は計画策定後、増加してきている。水洗化率は伸び悩んでおり、80%前後となっている。

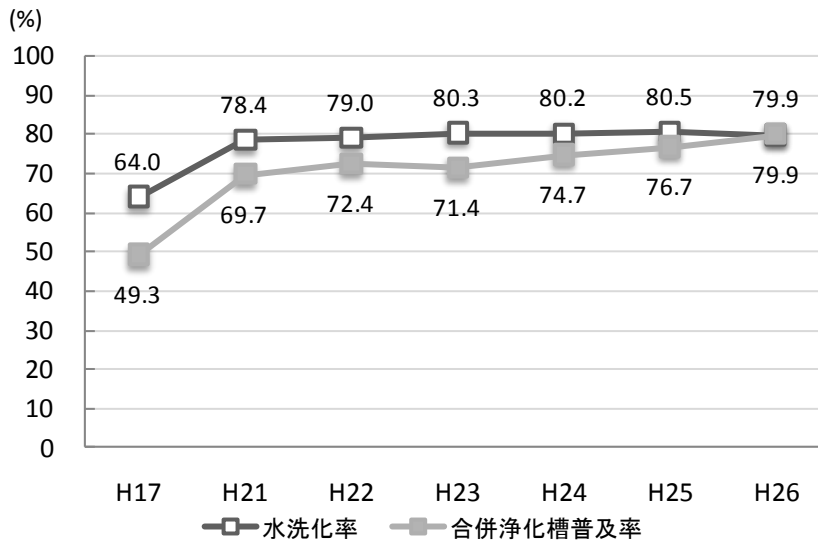


図 水洗化率と合併浄化槽普及率の推移

出典：恵那市「環境課資料」

③ 不法投棄

○平成 25 年度の不法投棄通報件数は 17 件で、前年度と比較して 2 件（11%）の減少となった。

表 地域別不法投棄の通報件数

年度	大井	長島	東野	三郷	武並	笠置	中野方	飯地	岩村	山岡	明智	串原	上矢作	計
H21	8	4	7	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	24
H22	6	3	4	1	1	2	2	0	4	4	1	0	1	29
H23	4	6	2	2	2	0	2	0	0	1	2	1	0	22
H24	1	6	1	0	1	0	1	0	4	2	1	1	1	19
H25	3	4	0	1	1	1	3	0	0	2	2	0	0	17

出典：恵那市「恵那市の環境（平成 26 年度版）」

4. 環境に関する市民意識

4-1. 生活環境分野の満足度・重要度

- 生活環境分野の施策では、「上水道・簡易水道の整備」「ごみ収集と処理サービス」「ごみ減量化と資源リサイクル化」で比較的満足度が高くなっている（満足、やや満足を含む）。
- 「ごみ収集と処理サービス」は重要度も高く、さらなる施策の推進が期待されている。

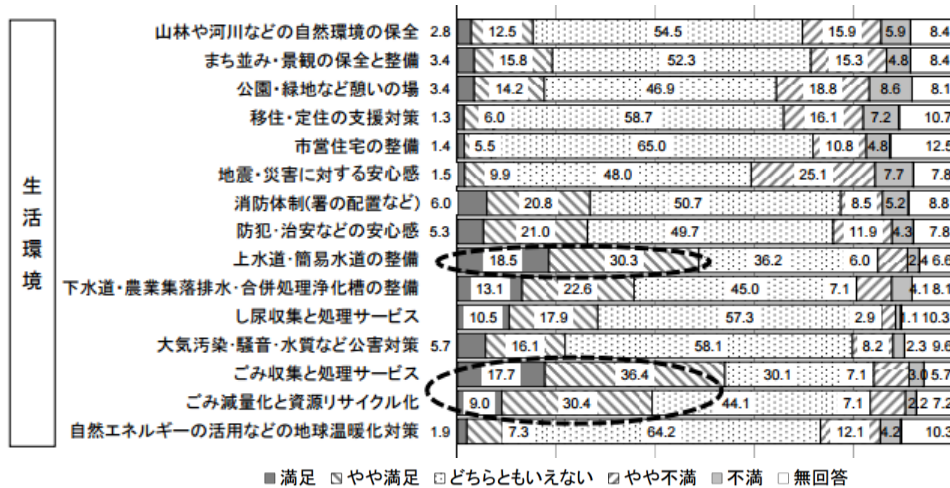


図 生活環境分野の施策の満足度

出典：恵那市「平成 26 年度市民意識調査結果報告書」

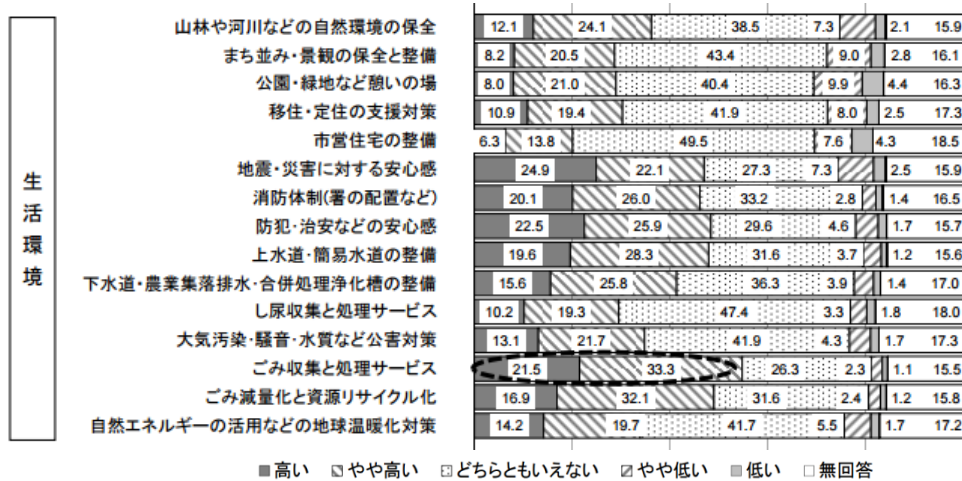


図 生活環境分野の施策の重要度

出典：恵那市「平成 26 年度市民意識調査結果報告書」

4-2. 生活環境分野の施策について

○生活環境分野の施策の、満足度、重要度のマトリックス図をみると、「ごみ収集と処理サービス」をはじめとする多くの施策で継続推進が求められているほか、「地震・災害に対する安心感」「自然エネルギーの活用などの地球温暖化対策」については重点課題、「山林や河川などの自然環境の保全」「公園・緑地など憩いの場」等の施策は課題と考えられる。

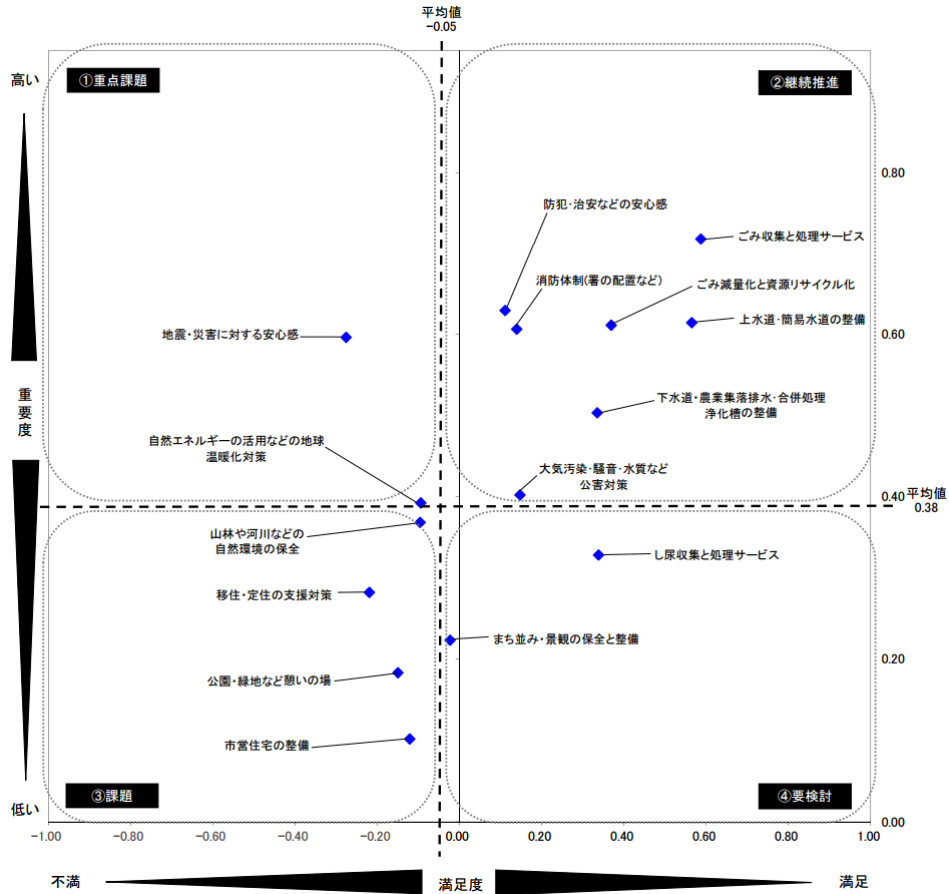


図 生活環境分野の施策のマトリックス図

出典：恵那市「平成 26 年度市民意識調査結果報告書」

5. 恵那市の環境の強みと弱み（まとめ）

○「3. 恵那市の環境の現状」及び「4. 環境に関する市民意識」を踏まえ、恵那市の環境の強みと弱みを以下のとおり整理する。

将来像	テーマ	サブテーマ	環境の強み（活かし、伸ばす）	環境の弱み（改善する）
人・地域・自然が調和した交流都市 青と緑と太陽と土を活かす	荒廃が見られる森林の整備や生物多様性の保全	森林の維持・活用	◎市域の77%を山林が占め、山と川の良好な自然景観田園農村景観が広がっている。 ◎農地・水保全管理支払交付金事業の拡大や農業体験・交流の体験人口の増加が図られている。	▲農業、林業の担い手が高齢化に伴い不足している。 ▲レッドデータブックはあるが、動植物の生息・生育状況が把握されていない。 ▲人工林の間伐面積は近年減少傾向にある。 ▲市民意識調査において「地震・災害に対する安心感」の重要度は高い一方満足度は低いことから、災害に強い森林づくりが重点課題であると考えられる。 ▲「山林や河川など自然環境の保全」「公園・緑地など憩いの場」について満足度が低いことから、課題であることが考えられる。 ▲耕作放棄地は近年減少していたが、平成25年度から平成26年度にかけて約100ha増加している。 ▲恵那市農業振興基本計画「人・農地プラン」に基づき、地区ごとの農地保全に取り組んでいるが、まちなみ・景観の保全整備の市民満足度は低下している。
		生物多様性の保全	◎現在屋外広告物条例の制定、景観重要建造物・樹木の選定に向けて取組みや、「人・農地プラン」に基づき各地農地を担い手による景観維持の施策を行っている。 ◎岩村町富田地区の農村風景は、「第7回美しい日本のむら景観コンテスト(平成10年度・農林水産省農村振興局)」の集落部門において、農林水産大臣賞を受賞している。	
		農地・農村景観の保全	◎中野方町坂折地区の棚田は急斜面地に当時の石組みの技術を集めてつくられており、全国棚田百選に選ばれている。	
	貴重な水資源としての水環境の保全	水質・水量の改善	◎「上水道・簡易水道の整備」に関して市民意識調査における満足度は高い。 ◎河川のBODの環境基準は18仮称の調査地点のうち、17箇所ですべて基準を上回り、達成率は94.4%となっている。	▲下水道水洗率、浄水槽、普及率の向上が求められている。 ▲矢作川、庄内川流域協議会など、広域的な連携が求められる。 ▲自治会などによる河川環境美化活動への組織的な支援が求められる。
		水辺環境の保全	◎水質汚濁の苦情件数は58件中4件と他の苦情に関する件数よりも少ない。 ◎木曾川水系、矢作川水系、庄内川水系からなる51もの大小様々な河川が流れており、山と川の美しい自然景観が形成されている。市内7つのダム及びダム湖が存在する。	
	不法投棄の防止・ゴミ処理方法の適正化等のゴミ問題の改善	不法投棄対策	◎不法投棄監視員によるパトロールを継続に実施しており、平成22年度から不法投棄通報件数は減少傾向にある。(平成22年から42%減少)	▲平成25年度の苦情件数58件のうち、悪臭に関する苦情が16件、不法投棄の苦情が17件、空き地の除草に関する相談が18件と、3つの苦情で全体の88%を占める。
		ごみ処理・処分体制の整備	◎市民意識調査において「ごみ収集と処理サービス」、「ごみ減量化と資源リサイクル化」についての重要度と満足度は高いことから、市民意識が高い。	
		ごみ減量対策	◎平成21年度からごみ処理施設の統合に伴い再生利用量が上昇傾向にある。また埋め立て率は減少している。	
		美化活動の推進	◎ごみの減量化のため、集団資源回収の補助や生ごみ堆肥化の啓発等の施策が進んでいる。 ◎一人一日あたりのごみの排出量は、近年横ばいで推移していたが、平成25年度から平成26年度にかけて100g以上減少している。	
	地球規模の環境問題解決への貢献	地球温暖化の防止	◎1世帯あたりの電力消費量は近年減少傾向にある。 ◎住宅用太陽光発電システムは年間100箇所以上の設置が進んでいる。	▲太陽光以外の小水力・風力など他の自然エネルギー導入の取組みは現在検討段階にとどまる。 ▲世帯当たりの自動車保有台数が高く(全国で6番目である岐阜県の世帯当たりの自動車保有台数を上回る)、近年世帯数が増加していたことから、自動車利用者数が増えていることが考えられる。 ▲部門別エネルギー消費量の中でも産業部門と民生業務部門でエネルギー消費量の割合が高いが、事業者へ温室効果ガス削減の促進について、あまり取組まれていない。 ※環境基本計画と直接的な関係がないため、国際的な交流活動に関しては環境基本計画から削除することとしている。
		国際的な交流活動	◎バイオマスファームの取組みを継続し取り組んでいる。	
		新エネルギーの導入	◎庁内において電気使用量の削減や、公用車利用により、温室効果ガス排出量削減の取組みを進めている。	
環境問題や環境保全に向けたしくみ作り・環境学習の推進	人材育成	◎環境問題や環境保全に取り組むNPO法人や市民団体への助成金を受けた後、自立し、継続した取組みを展開している団体が多い。環境活動組織数も平成25年度から平成26年度にかけて増加した。	▲これまでに「こどもエコクラブ」の登録がなく、活動されていない。 ▲子ども教室を行うための安全管理者や地域ボランティアの確保が求められる。 ▲地域の特色を生かした環境教育における地域の指導者の担い手が、高齢化に伴い減少している。 ▲観光施設と誘客PRの満足度は目標値を大きく下回っているため、観光の内容を充実させることが課題である。	
	地域活動の推進	◎平成25年度より、環境政策に関する市民講座を開講し、学習機会の提供を進めている。		
	恵那らしさの維持	◎地域の特色を生かして、観光プロモーション、観光のソフト事業の展開の取組みを進めている。観光客数は横ばいであるが、祭り・イベントへの参加者数の増加がみられる。		